

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493000119	事業の開始年月日	平成21年10月1日	
		指定年月日	平成21年10月1日	
法人名	株式会社ニチイ学館			
事業所名	ニチイケアセンター大和桜森			
所在地	(〒 242-0028) 神奈川県大和市桜森2-26-4			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成27年12月30日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月30日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意思・その人らしさを尊重し我が家のように寛いで過ごしていただける環境を心がけております。
ホームでの生活が単調にならないように大正琴・カラオケ等のボランティアを取り入れ、スタッフ主導によるレクリエーションで身体・脳の活性化をはかっております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年1月19日	評価機関 評価決定日	平成28年5月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、相鉄線相模大塚駅から幹線道路に沿って徒歩5分の、少し奥まった住宅地にある。道路から少し入っているので車の騒音は気にならない。建物は鉄骨2階建てで陽当たりが良い。内部はバリアフリーで、車いす対応のエレベーターで移動できる。1階の掃き出し窓を開けると、テラスに続いており畑や花壇のある庭に下りることができる。</p> <p>【利用者に寄り添う】 職員は勤務経験が長く経験豊富で、利用者にやさしく接し、意向に沿ってその人らしく過ごせるように、理念に謳う「安心、安全、ほほえみを！！」の実現に努めている。利用者の介護度の進行に伴い、全員が揃って外出することが難しくなってきた。車イスの方は個別対応で近所を散歩し、無理な方はベランダで外気浴や日光浴をしている。利用者の希望でコンビニや洋品店にも買い物に行く。</p> <p>【レクリエーションの継続実施】 地域のボランティアが来訪してくる。大正琴は月2回、カラオケは4～5名で月1回来て、日頃の生活に彩りを添えて、利用者に笑顔と元気を届けてくれる。職員が先生役で書道や体操などを楽しんでいる。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ニチイケアセンター 大和桜森
ユニット名	桜の郷・緑の郷

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を目に付く場所に掲示している。	「安全・安心・ほほえみを」と簡潔な理念を、1・2階のフロアに掲示して職員および利用者に周知している。職員は理念に沿って利用者を支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア・商店・散歩等で近所との交流を図っている。	自治会に加入しているが、特に活動には参加していない。地域ボランティアは大正琴が月2回、カラオケは4～5人で月1回来訪している。近所の散歩で近隣の住民、商店と交流をしている。	地域密着型事業所として自治会との交流を図り、地域に認識してもらうことを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度開放し、近隣の方に見学対応をしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催を予定している。	平成27年度は1回の開催に留まっている。地域包括支援センター職員、家族が参加している。会議の内容は事業所の活動報告が主体である。	運営推進会議のメンバーとして自治会役員、民生委員、地域住民、ボランティアなどにも声をかけ、より多くの方に参加していただき、地域の意見を反映することが望まれます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に2回メールにて空き状況を担当者に報告している。	大和市には要介護更新申請代行に行った際に事業所の近況を報告して連携している。市の研修会に参加している。大和市グループホーム連絡会に加入し情報交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフとの話し合いにて。やむを得ない場合は御家族に報告し承諾を得るようにしている。	身体拘束廃止の研修を年1回実施している。玄関とユニット入口は日中は施錠していない。転倒の危険のある方は夜間の就寝中だけ、家族の了解を得て期間を限って、ベッドの4点柵を設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関わる様相が見られる時はスタッフに注意を促す。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年説明会が実施されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	読み合わせにて説明をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見が上がる時はスタッフに報告し、話し合いにより利用者の意見を反映している。	家族の来訪時やクリスマス等の家族参加の行事の際に、管理者が家族とコミュニケーションを取り、意見・要望を聞き取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案はその都度話し合いをおこなう。	毎朝の申送り時に職員の意見や提案を聞いている。1階はケアマネージャー、2階は管理者が聞き、その都度解決している。申送りノートで職員間で共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在スタッフが足りないため、労働時間が超過している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部の研修参加により、スキルアップをはかっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大和市のGH管理者会議に参加できるときは出席する。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談事を伺った時は職員・ケアマネ・管理者で話し合いをおこなう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族参加のイベント時に意見交換をし、個別にてそのときにも対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、出来る限りご家族・ご本人の不安を取り除くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段のコミュニケーションに心がけ尊厳を守り支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加のイベント時に意見交換をし、個別にてそのときにも対応をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	穏やかな生活ができるよう制限なく来訪者を受け入れている。	親戚や友人が来訪されると、居室に案内し、湯茶でもてなしている。電話の取次ぎや、年賀状の差出し支援をしている。なじみの美容院や墓参りは、家族に同行してもらおうよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体を見ながら満遍なく介護に従事することに留意している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの行事等に気軽に参加できるように声掛けをしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンスにて本人の意向、ご家族の意向をふまえ話し合う。	日々の生活の中で、利用者の希望や意向を聞き取るようにしている。把握が困難な場合は表情や仕種から判断し、家族に聞くこともある。得られた情報は管理日誌や何でもノートに記録して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴をご家族・各機関より聞き取る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活のペース・残存能力・心身状態・健康状態等の情報を共有し、サービスを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期計画ごとのモニタリング・カンファレンスにより、介護計画を作成している。	職員を集めて話し合いモニタリングをし、家族の希望や往診記録を参考にして介護計画を作成している。3～6か月ごとに計画を見直し、利用者の状況に変化がある時はその都度介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と職員の気付きにより、計画の見直し実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今後状況により、小規模な認知症のデイサービスを同フロアでおこなう計画があり。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用はしていない状況。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と本人の了承を得て対応をしている。	入居前のかかりつけ医を受診する方は1名いるが、その他は協力医の往診を月2回受けている。協力医は24時間対応可能である。歯科は週1回、訪問看護は週2回、訪問マッサージは週2回来訪がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の看護師・訪問の看護師に24時間連絡できる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医と入院先の医師と蜜に連絡をとるための情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・往診医・看護師と話し合い決めている。	入居時に家族へ看取りを行わないことを説明し、了解を得ている。重度の利用者が入院となり、退去となった例がある。重度化対応の研修は行われていない。	職員向けに重度化対応の研修を実施することが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全員普通救命の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施をしている。	避難訓練は今年度まだ行っていないが、昨年は1回実施している。玄関わきの備蓄庫に、非常用の食料・水、おむつなどを3日分備蓄している。1、2階の事務所には、衣類・おむつなどを入れた利用者ごとの非常持ち出し袋を保管している。消防への連絡はホットラインがある。	災害時には近隣住民の連携、協力が不可欠ですので、日頃から協力をお願いできる関係を築くことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ふさわしくない対応をしている場合はその都度注意を促す。	職員に対する言葉遣いや接遇の研修は事業所毎に地域の管理者が相互に入れ替わって行っている。新入職員にはオリエンテーションで説明し、OJTで指導し不適切なことがあればその場で注意している。個人情報を含む書類は書庫に施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自主性を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方それぞれのペースで決定・実行をしてもらう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にて整髪、レクリエーションでお化粧品・マニキュアをしてもらう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力・心身状況をふまえて支援をしている。	献立は本社から送付され、魚と野菜は業者から配送される。その他の食材は職員が買い出しに行き、職員が調理している。利用者は配膳、食器拭きを手伝っている。状況により刻みミキサー、とろみで対応している。時々外食にも行く。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を介護記録に記載している。利用者により刻み・ミキサー・とろみ等をつけて提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力により支援をおこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時の声掛けにて誘導し排尿パターンをつかみ、できる方はトイレにて排泄するよう支援をしている。	全員の排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握している。それぞれに声かけをしてトイレ誘導し、トイレで座って排泄するよう支援している。夜間も、誘導を心がけている。オムツ利用者を見回り時にチェックしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽度の運動と適切な水分量にて排泄を促す。未排便時は冷たい牛乳・プルーンジュースにて対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日にて決めてはいるが、未入浴が長い方はその方を優先としている。また、入浴剤を使用し気分転換をはかる。	入浴は、原則週2回、午前中に実施しているが、希望があればいつでも入浴することができる。入浴を好まない方には無理強いせず、時間や日を替えて勧めている。季節にはしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床の時間は利用者が寝たいと思う時間に決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局にて管理・把握をしてもらい、職員は間違えのないよう薬状を見てセッティング翌朝のスタッフが確認をする。服薬は声掛けにて他職員とチェックし、飲み込み確認をおこなう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味・嗜好に合わせて支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩による外出の機会。ご家族との外出は速やかに行けるように対応をしている。	利用者の介護度の進行に伴い、全員揃って外出することが難しくなってきた。車イスの方は個別対応で近所を散歩し、無理な方はベランダで外気浴や日光浴をしている。利用者の希望で、コンビニや洋品店に買い物にも行くこともある。	限られた職員体制の中ではありますが、気分転換となる散歩や日光浴などの機会をより多くつくるのが望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動パン屋やコンビニ等にて会計できる機会を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の制限はなし。電話は家族の意向によっては制限を設けるときがある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や貼り絵・習字などを飾り、落ち着ける空間を心がける。また、行事の写真を掲示する。	リビングは採光が良く明るく、掃除が行き届き清潔である。温湿度は職員が調整し、快適な環境となっている。利用者の制作した習字や貼り絵の作品、行事写真等を飾り生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室でいつでも寛げるように開放している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでいただき、落ち着いて過ごしていただくように心がけている。	居室はきれいに整頓され、掃除も行き届いている。ベッドやテレビ仏壇等馴染みの品を持ち込み、家族写真やぬいぐるみ、人形などに囲まれた、気の休まる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でも居室・トイレに行けるように、名札や目印をつけている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニハヤマセン - 大井町学森

作成日 28年6月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域密着型事業として自治体へ参加しているが活動に力が入らない	自治体へ主催する活動に参加するよう促す。	イベントの参加で、草刈り等、地域へ活動に参加できる。	3ヶ月
2	3	運営推進会議の開催が定まっている	2回/月へ運営推進会議の開催を促す。	日時を事前に決定し、開催を決定して行うようにする。	3ヶ月
3	18	利用者様と外出散歩へ行ける機会が減少している。	利用者様と散歩、外出へ行く機会を増やす。	外食の機会を増やす、外食へ行く機会を増やすようにする。	3ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。